invested in insights.

eastspring investments
A Prudential plc (UK) company

市場の揺れの先を見る
AIから広がるテクノロジーの成長機会

"Market update"

本レポートは2026年11月6日時点の情報に基づいて作成しています。



Eric Lin
ポートフォリオ・マネジャー
イーストスプリング・インベストメンツ（台湾）



面谷　祥友
取締役　営業マーケティング本部長
イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

ポイント

- **アジアのAI関連企業では、2027年の業績の予見性は引き続き高い**
  アジアのAIサーバー・サプライチェーンでは、すでに建設中のプロジェクトに加え、設備調達の長いリードタイム、先端パッケージングの供給逼迫、既存の受注残が、2027年の需要と業績を下支えしています。足元ではテクノロジー株の調整が続いていますが、2027年については、すでに動き出している投資や受注が業績を支える構図に大きな変化はないとみています。

- **2028年以降のリスクには注意が必要。ただし、AIの構造的な需要への見方は変わらない**
  米国では、データセンター建設の許認可や電力網への接続制約、プロジェクトの遅延などが、2028年以降の業績に影響を及ぼす可能性があり、その動向を注視しています。一方、AIが世界的なテクノロジー競争とインフラ投資の中核に位置し、その用途もモデル学習から推論、エージェンティックAIへと広がるなか、データセンター需要そのものが消失するのではなく、需要が後ずれする、あるいは他地域へ移転する可能性が高いと考えています。

- **投資機会は一部の大型半導体株にとどまらない**
  AIの成長を支えるのは、一部の大型半導体企業だけではありません。先端プロセス技術や先端パッケージングに加え、メモリ、基板、ネットワーク、熱管理、電力関連部品など、AIサーバーやデータセンターを支えるサプライチェーン全体へ投資機会が広がっています。 こうした幅広い分野でアジア企業が有する競争優位性が、アジアのAIサーバー・サプライチェーンに対する当社の前向きな見方を支えています。

英国プルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。
最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているプルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるプルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

※ご留意いただきたい事項を最終ページに記載しております。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）　第379号／加入協会　一般社団法人資産運用業協会

invested in insights.

足元の市場調整をどう捉えるか

最近のテクノロジー株の調整は、AIに対する長期的な需要や業界の構造的な成長見通しが根本的に悪化したことによるものではなく、主として短期的なリスク選好の低下、選挙後の政策を巡る不透明感、利益確定の売り、そして市場が2028年以降のデータセンター建設の潜在的な遅延リスクを織り込み始めたことを反映したものと当社は考えています。

こうした市場環境のなか、投資家の評価軸にも変化がみられます。 AI関連であるというだけで評価される局面から、AIへの投資が企業全体の売上高や利益、キャッシュフローの成長にどの程度結びついているかが、より厳しく問われる局面へと移りつつあるとみています。今後は、AI関連売上高の成長だけでなく、企業全体のファンダメンタルズやAI投資から得られるリターンを見極めることが、これまで以上に重要になると考えています。

2027年の業績の予見性は引き続き高い

2027年のデータセンターおよびAIサーバーへの需要は、すでに建設中のプロジェクト、設備調達の長いリードタイム、先端パッケージングの供給逼迫、既存の受注残によって引き続き支えられており、業績の予見性は高い状態にあります。

一方、2028年以降については、より慎重な見方が必要だと考えています。当社では、米国におけるデータセンター建設の許認可、電力網への接続制約、プロジェクト遅延の可能性が実際に及ぼす影響を注視しています。こうした不確実性は、2028年以降の業績予想の下方修正につながる可能性があります。

それでも、AIが引き続き世界的なテクノロジー競争とインフラ投資の中核に位置していることを踏まえると、データセンター需要そのものが消失するのではなく、需要が後ずれする、あるいは他の地域へ移転する可能性の方が高いと当社は考えています。

また、発電能力、電力網の供給力、およびそれらを支えるインフラの拡充が続くなか、データセンターの追加的な供給能力は今後も拡大すると予想しています。ただし、そのペースは市場が従来想定していたものより緩やかになる可能性があります。

2027年もAIの成長ストーリーは持続するのか

2027年を見据えるうえでは、世界的なAI向け設備投資が持続するのか、そしてこれまでの巨額な投資が最終的に企業の収益や生産性の向上につながるのかが、より重要な論点になると考えています。

投資家の間では、巨額のAI投資を実際にどのように収益化していくのかを見極めようとする動きが強まっています。このため、世界的なAI投資の減速に加え、サプライチェーンや投資家心理、バリュエーションに影響を及ぼす可能性のある地政学的な緊張についても、リスク要因として注視する必要があります。

一方、AIの構造的な需要を支えているのは、その活用領域の継続的な拡大です。AIの利用はモデル学習だけでなく推論へと広がっており、さらに今後は、ユーザーの指示に基づいて自律的に複数のタスクを実行するエージェンティックAIへの展開も進むとみています。こうしたAI用途の広がりは、必要とされるコンピューティング能力や関連インフラへの中長期的な需要を支える要因になると考えています。

当社はリスクを慎重に見極めながらも、AIの構造的な成長と、それを支える継続的な設備投資に引き続き確信を持っています。

短期的な市場変動の先にあるトレンドを見極める

大幅な市場下落はリスクであると同時に、長期投資家にとって魅力的な投資機会となり得る局面でもあります。テクノロジー株が大きく調整する局面では、短期的な市場心理やニュースに左右され、長期的な成長力を持つ企業まで売られることがあります。こうした局面だからこそ、目先の株価変動に左右されるのではなく、その先にある構造的なトレンドや成長テーマをしっかりと見極めることが重要です。

当社は、テクノロジーセクターおよびAIの発展に対する長期的な前向きな見通しを維持しており、今回の市場調整を、より妥当なバリュエーションで質の高い企業への投資ポジションを積み上げる機会と捉えています。

AIの投資機会は一部の大型半導体株だけではない

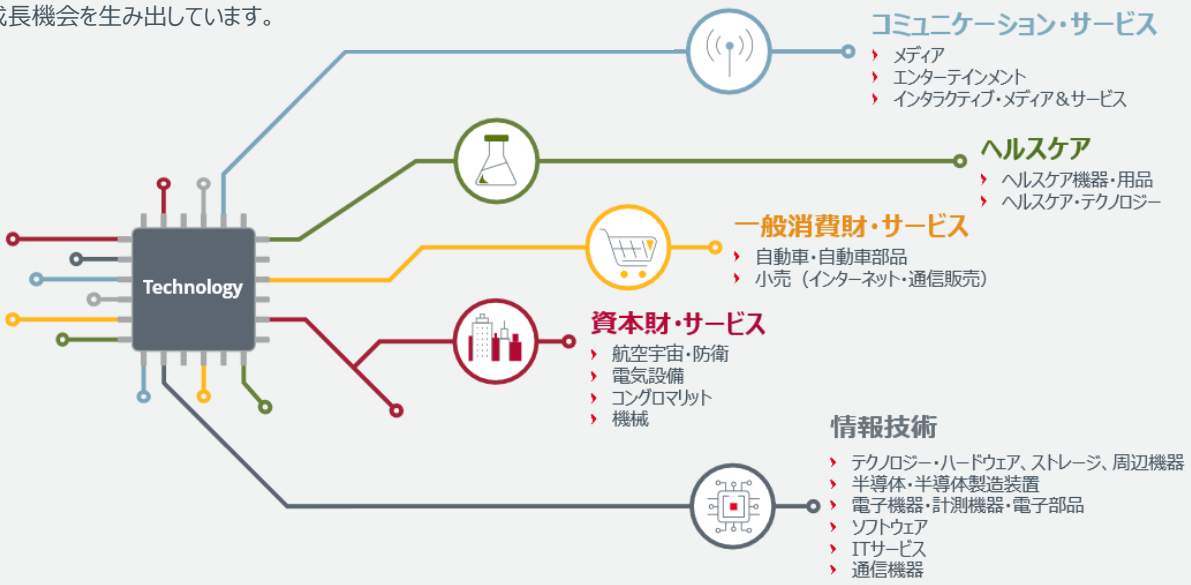
これまでアジアのテクノロジー株の上昇において、大型半導体企業が中心的な役割を果たしてきました。しかし、AIの成長から恩恵を受ける企業は、一部の大型半導体メーカーだけではありません。

AIサーバーの高性能化とデータセンターへの投資拡大に伴い、投資機会は、先端パッケージングやテスト、カスタム半導体、AIネットワーキング、半導体製造装置、精密製造、さらに冷却システムや電力管理ソリューションなど、AIサプライチェーン全体へと広がっています。さらに、テクノロジーの進歩による恩恵は、AIサプライチェーンに直接関わる企業だけでなく、テクノロジーを活用して生産性やサービスを向上させる幅広い産業へ波及する可能性があります。

invested in insights.

テクノロジーの投資機会はAIだけではない

テクノロジーの投資機会は、AIや半導体だけにとどまりません。テクノロジーは、情報技術に加え、コミュニケーション・サービス、ヘルスケア、一般消費財・サービス、資本財・サービスなど幅広い分野に浸透しており、その進歩が新たな成長機会を生み出しています。



出所：イーストスプリング・インベストメンツ作成。上記は例示を目的とするものであり、すべてのケースを網羅しているとは限りません。

このように、AIという大きな成長テーマを捉えるうえで重要なのは、一部の主力銘柄だけに注目するのではなく、AIを支えるサプライチェーンやインフラ、さらにはその成長から二次的な恩恵を受ける企業まで視野を広げることだと考えています。

アジア企業が持つ幅広い競争優位性

世界のAIサプライチェーンにおいてアジアのテクノロジー企業が果たす重要な役割について、当社は引き続き前向きに評価しています。

特に、アジア企業が有する、先端プロセス技術、CoWoSなどの先端パッケージング、ハイエンド基板、PCB（プリント基板）、HBM（広帯域メモリ）およびメモリ、AIサーバーODM（設計・製造受託企業）、さらには熱管理および電力関連部品に至るまでの幅広い分野での競争優位性が、アジアのAIサーバー・サプライチェーンに対する当社の前向きな見方を支えています。

投資家への示唆

今回のテクノロジー株の調整を、AIの構造的な成長トレンドの終わりと捉えるのは早計だと考えています。一方で、すべてのAI関連企業が一様に恩恵を受ける局面でもありません。市場の関心がAI投資の規模から、その収益化や投資リターンへと移るなか、企業間の選別はこれまで以上に重要になるとみています。

投資家にとって重要なのは、短期的な株価変動を追うのではなく、その先にある構造的な変化を見極めることだと考えています。AIへの期待だけでなく、競争優位性、利益成長、キャッシュフロー、収益化への道筋、そしてバリュエーションを見極めながら、AIサプライチェーンだけにとどまらない幅広いテクノロジーの投資機会を捉えることが、今後一段と重要になると考えています。

＜当資料に関してご留意いただきたい事項＞

○当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式／債券や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。